

「児童集会（むし歯）」で学んだこと

昼休みに運動場にいると、体育館から物音が聞こえてきました。「何だろう？」と思って中をのぞいてみると、保健委員会の子もたちが児童集会に向けて練習をしていました。昼休みにも関わらず、熱心に練習する姿をみながら、本番がとても楽しみになっていました。

6月10日（水）いよいよ本番の時を迎えました。ピンクの衣装を着けた3名の子もただけで、会が進行していきます。集会の中では、本校の子もたちの虫歯や口の中の様子について、クイズを出したり、スクリーンにイラストなどを映し出したりしながら分かりやすく説明してくれました。集会に参加した子もたちは、改めて歯磨きの大切さを感じることができたと思っています。

集会の内容も素晴らしかったのですが、私が嬉しかったのは、保健委員会の子もたちの姿でした。堂々とした態度で、聞き手を意識しながら話していました。普段は、恥ずかしそうにしている子もも、大きな声が出ていました。

3名の子もたちの姿から、「本番に向けての努力」を感じ取ることができました。私たちの知らないところで、しっかり練習して「自信」をつけた子もたちが、とても輝いて見えました。

今回、「むし歯」のことだけではなく、「努力することの大切さ」も学ぶことができた素晴らしい児童集会でした。



気づいて、考えて・・・

「校長先生、何をしてるんですか？」

「運動場の石ころを拾ってるよ！」

「どうして？」

「転んだときに、けがをするかもしれないからね。」

昼休みに運動場の小石を拾うことが、私の日課の一つになっています。そんな私の様子を見て、一緒に小石を拾ってくれる子どもがいます。中には、「かくれんぼ」をしている最中に小石を拾って持ってくる子どももいます。先日は、スコップを取り出し、土に埋まっている石を掘り出し始める子どもも出てきました。「小さなバケツ1杯」をノルマにしていますが、この日は、5～6杯ほどの小石を集めることができました。

子どもたちは、私たちが思っている以上に、大人の姿をよく見ているなあと思います。髪型、服装、行動など、いつもと違うと感じれば、「あれ？」と思うのでしょうか。

何でも、一人でやると時間がかかり、気持ちものらないものですが、一緒にやる仲間がいると、やる気もアップし、気持ちよく活動できるようになります。

子どもたちには、自分のことだけではなく、周りの人にもしっかり目を向け、「自分にできることがあるかなあ」と考え、進んで行動できる人になってほしいなあと思います。

暑い日が続いていますが、昼休みに元気に遊んだり小石を拾ったりする姿を見ると、蒸し暑さは吹っ飛んでしまいます。